

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム  
実施状況および成果(広報用)

プログラム名	フランス、リール大学語学・文化研修プログラム	
学部・研究科名	全学教育機構	
プログラム実施期間	2019年2月23日～3月10日	
研修先(国・都市・施設名)	フランス、リール大学	
参加者数	13名	知の森からの支援者：12名
プログラム概要	<p>本プログラムは、信州大学が目指す「グローバル人材の育成」を推進するものである。全学部の学生(2・3年生)に対して開かれたプログラムであり、本学の学術交流協定校であるリール大学で、語学・文化研修を実施した。プログラム内容は、主に以下の4つである。</p> <p>①リール大学語学学校SUPにて、2週間の語学研修。 ②研究室訪問や学部授業の見学。 ③リール大学の日本語学習者たちとの交流。 ④個人視察(参加者はテーマをそれぞれ決め、それに沿ってリール市内・郊外の様々な施設を見学した)。</p> <p>出発前には、複数回にわたって事前学習を行い、語学コース参加や学生交流の下準備、安全対策などを行った。また、視察予定施設に関連する事前調査を行うことにより、各自が自分のテーマに対する意識をしっかりと持ち、十分な心構えと知識を有して研修に参加できるようにした。帰国後は「成果報告会」を開催し、各自に学んだことについてプレゼンをしてもらった。参加者には、2019年度春季・秋季の「フランス語検定準2級」の受験を強く推奨している。</p>	

実施状況・成果

語学学校の授業は完全にフランス語で進められ、最初は学生に戸惑いがみられた。しかし数日すると、耳がフランス語に馴染み始めたようで、積極的な発言が聞かれるようになったと、担当教員から報告があった。

アトリエでは、リール市内や近郊へのエクスカーションが行われた。リールが位置するフランドル地方は、中世以来毛織物業によって繁栄し、長らく北ヨーロッパの経済の要だった地である。その利益を巡る争いによって、統治者は激しく入れ替わった。旧施設院や郷土資料館では、このようなリールの歴史について詳しく学び、北フランスの風土に触れることができた。

授業やエクスカーションの合間には、参加者たちは、自分の専攻に合わせて、研究室や施設を訪問した。また、いくつかの学部の授業も聴講させて頂いた。学部授業の聞き取りは相当難しかったと思われるが、なんとか理解しようと懸命に耳を傾けていた。授業後には、フランス語で質問を試みた学生もいた。

リール大学の国際経済・社会学専攻の院生たちや、日本文化研究サークルAssociation Onigri Lilleのメンバーと交流する機会が設けられた。学生たちは、授業で学んだ単語を使ったり、日常会話特有の表現を教えてもらったりしながら、日本語とフランス語を交えてコミュニケーションを図っていた。こちらからは、リール大学の関係者一同と院生たちを招待して、お茶会を催した。当日は二人の学生が着物を着て、お点前を披露してくれた。

研修後半は、学生たちは各自のテーマに沿った視察を行った。成果報告会では、オペラ鑑賞の報告や日仏の学生文化の違いについての考察、建築や街並みの特徴の調査結果などが語られた。発表者それぞれの視点で、興味深い考察がなされていた。

今回の研修は、二週間という短い期間で行われたため、語学力の大幅な向上は難しかったが、それでもヒアリングにおいては、ある程度の上達が見られた。研修終了時には全員がA1、A1+、A2の語学力証明書を受け取ることができた。むしろ、研修の成果は即時に現れるものではなく、長い目で見ていく必要があるだろうが、日本以外の環境に身を置き、ヨーロッパの風土に触れ、フランスのアカデミーの雰囲気を知ったことは、今後、参加者たちの視野を広げるきっかけとなりうると思われる。実際に、研修終了後、数人の参加者から、フランスや他の国への留学を希望するようになったとの相談を受けている。グローバルマインドの養成がある程度実現したものと考えられる。

学生の声①ー医学部 学生

私は将来、国境なき医師団や国際機関等で活動したいと思いフランス語を学んでいます。フランス語と英語を使い仕事をするという目標のもと、研修に参加しました。研修で感じたことは「自分の目標は国際的に見たら、ほんの一步に過ぎない」ということです。店員や学生は、フランス語が上手に話せない人に対して英語で話します。英語とフランス語を使うことは日常的に行われているのです。これは日本では感じ難いことです。日本では英語が話せるというだけで「凄い」と言われがちですが国際的にみれば、その基準や達成度は大きく異なります。今回の研修では自分の位置を明確にでき、より一層意識が高まりました。国際的に活動したい、国内での学習に限界を感じている人がいたら、海外研修は良い機会だと考えます。

学生の声②ー人文学部 学生

このリール研修では、語学の勉強はもちろん、フランスの生活や人々の考え方に多く触れ、自分の視野を広げることができました。また、今までは、海外の方とのコミュニケーションを避けてしまうことが多かったのですが、この研修を終えてからは海外の方と臆せずコミュニケーションをすることができるようになりました。この研修で自分の殻を破ることができたと実感しており、参加して本当によかったと感じています。

日仏文化交流 お茶会



語学学校授業

